

果報は起きて待とう

2014年4月3日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
藤代 宏一
TEL 03-5221-4523

15:23 現在

<主要株価指数>		
	終値	前日比
日経平均株価	15071.88	125.56
NYダウ	16,573.00	40.39
DAX(独)	9,623.36	19.65
FTSE100(英)	6,659.04	6.43
CAC40(仏)	4,430.86	4.14

<外国為替>※		
ドル円	103.85 円	-0.03 円
ユーロドル	1.3758 ドル	-0.00 ドル

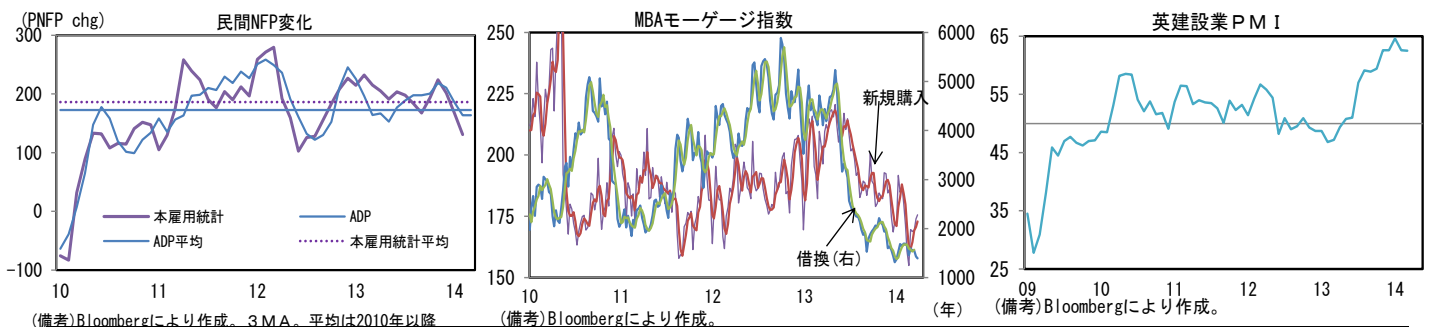
<長期金利>※		
日本	0.647 %	0.02 %
米国	2.805 %	0.05 %
英国	2.774 %	0.04 %
ドイツ	1.616 %	0.04 %
フランス	2.137 %	0.04 %
イタリア	3.308 %	0.02 %
スペイン	3.267 %	0.02 %

<商品>		
NY原油	99.62 ドル	-0.12 ドル
NY金	1290.50 ドル	10.90 ドル

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。
(出所) Bloomberg

【海外株式市場・経済指標他】 ～期待を高める～

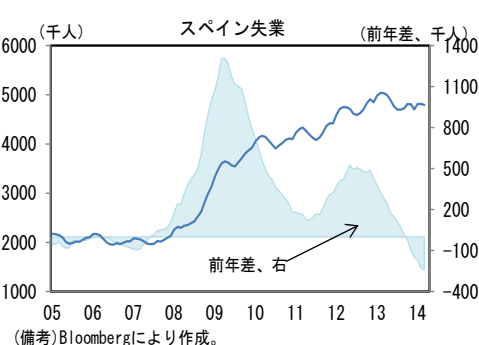
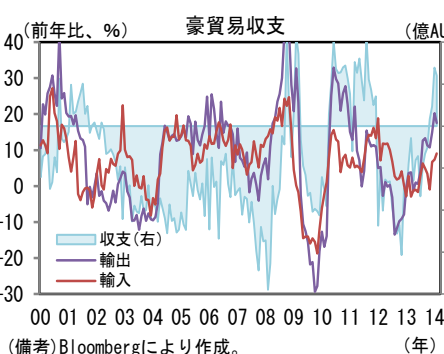
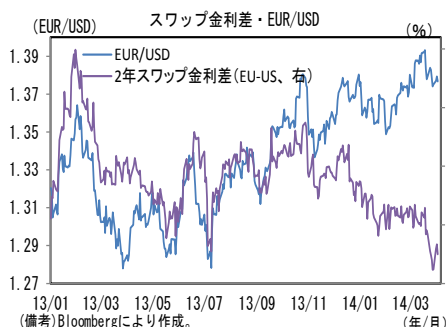
- ・ NYダウ平均株価は前日比+40.39ドルの16573.00ドルで取引終了。
- ・ 3月ADP雇用統計は19.1万人と市場予想(19.5万人)を下回ったものの、上方修正された前月(13.9万人→17.8万人)から加速。3月上旬までは一部地域が悪天候に見舞われていたが、雇用に与えた影響は限定的だったとみられる。6MAでは18.7万人と前月時点(19.1万人)から減速も、3MAは16.4万人と前月時点から不変でモメンタム鈍化に歯止めがかかった。
- ・ MBA住宅ローン申請指数は前週比▲1.2%となったが、新規購入指数は+0.9%と3週連続増加。年初の水準には遠く及ばないものの、2月の落ち込みは半分ほど取り戻している。
- ・ 3月英建設業PMIは62.5と市場予想(63.0)を下回ったものの、異例の高水準をキープ(前月:62.6)。依然として建設セクターが活況を呈している様子が窺える。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

【外国為替相場・債券市場】～スペイン：雇用環境持ち直し継続～

- ・ 2日のG10通貨はUSDの強さが目立った。アジア時間から上昇したUSD/JPYは堅調なADP雇用統計を確認して高値維持。EUR/USDは米金利上昇がするなか欧州時間から下落を開始。米独金利差や米欧スワップ金利差は依然としてEURが割高であることを示唆している。3日の日本時間でUSD/JPYは104を挟んで一進一退。経済指標では2月豪貿易黒字が縮小(13.9億AUD→12億AUD)も予想(8.0億AUD)は上回った。一方、2月小売売上高は+0.2%と堅調も予想(+0.3%)には届かず。AUDは後者に反応して軟調に推移。
- ・ 米10年金利は+5.2bpの2.805%。カーブ上では中期ゾーンを中心に上昇。5年、7年金利はそれぞれ+6.1bp、+6.8bpとなり、5年-30年スプレッドは+1.85%までタイトニング。欧州債市場はコア国中心に軟調。欧州株は区々も、米金利上昇に追随。独10年金利は+4.3bpの1.616%。ECB理事会を翌日に控えて“失望”に備えたようにもみえる。ただ、GIIPS金利は相対的に堅調で対独スプレッドはタイトニング。経済指標では、3月ユーロ圏PPIが前年比▲1.7%と前月(▲1.6%)から減速し、SA前月比でも▲0.2%落ち込んだ。3月スペイン純失業者数は▲1.66万人と予想(▲1.45万人)よりも強かった。



【国内株式市場・経済指標他】～15000回復～

- ・ 日経平均株価は前日比+125.56円の15071.88円で取引終了。
- ・ 3月サービス業PMI (Markit)は52.2と前月(49.3)から改善し、50を回復。消費増税前の駆け込み需要が寄与した模様。調査企業からは「消費増税前の駆け込み需要の発生で新規事業への対応は困難だった」との声があった。こうした動きもあり受注残は4ヶ月ぶりに増加。4月以降の景気に明るいサインと言える。

【注目点】～果報は起きて待とう～

- ・ 3月雇用統計は4ヶ月ぶりに「強い米経済」を示すことになる。市場予想が20.0万人(当社予想:19.0万人)と強気なので幾分ハードルが高いように感じるかもしれないが、これを僅かに下振れたくらいで市場は失望しないだろう。3月ISM指数(製)がそうであったように、市場予想を下振れても前月からの加速が確認できれば市場は満足するはずだ。日米株高・USD/JPYの上昇を期待して問題ない。
- ・ とはいえ、ノイズが無くても振れが大きいのが雇用統計。3月雇用統計が失望的な内容(例えば15万人割れ)になる可能性はある。だが、それでも悲観する必要はない。筆者は米企業が大量の受注残(未消化の注文)を抱えていることに注目している。ISM指数(製)の受注残は1月の48.0に対して2-3月平均は54.8と高水準にある。Markit版PMIでも1月の49.2に対して2-3月平均は56.2と高水準だ。これは新規受注が増加する中で寒波の影響から生産が滞ったことによるものだ。非製造業でも同様の構図。2月ISM(非製)の受注残は52.0と1月平均(49.0)よりも高く、3月の受注残も高水準を維持したとみられる(今晚発表)。この受注を消化する過程で雇用が伸びると考えるのが自然だろう。

